

のみ出現した。テンジクダイ、キンメモドキ混じりは5月から8月まで出現し、盛期は7月であった。スズメダイは8月から10月まで出現し、出現盛期は9月、キンメモドキは6月から8月まで出現し、出現盛期は7月であった。

③ 漁場別、月別採捕量

主要餌場の月別採捕量をみると、佐良浜東では7月から9月まで採捕し、3,910kg、盛期は8月であった。大神島では5月から9月まで採捕し、12,730kgで全体の31%、盛期は佐良浜東同様8月であった。白川湾では5月から9月までに6,034kg採捕し、盛期は7月、イラウバシでは6月から10月までに6,782kg採捕し、盛期は9月、西村前では5月から8月まで採捕し、盛期は7月、イーバシミジュキでは6月から9月まで採捕し、盛期は7月であった。宮古周辺全体の餌料の月別採捕量は8月か盛期で12,470kg、1日当りの採捕量は9月の131.1kgが最も高かった。

4 今後の課題

本部のカツオ漁業船が使用している餌は、イワシ類等、火光利用で集魚し、採捕している。現在本部では四つ張網を使用しているがもっと効率のよい捧受網、浮敷網を使用して操捕効率を上げ、蓄養イケス等を設置し、餌料魚の活力を高めるため、当試験場で現在調査試験中である。これが十分に活用されれば、餌の安定供給が実現し、いままで餌の活力が弱いため日帰り操業しかできず、おのずと操業海域もせばめられていたが餌の活力を高めると、長期操業、操業海域の拡大もできるであろう。

伊良部、八重山はタカサゴ幼魚、テンジクダイ幼魚、スズメダイ類幼魚を使用しているが、活力の面では問題ないが、幼魚使用のため時期が短期間で、現在4月から10月までしか操業を行なっておらず、周年操業を行なうには新たな餌の開発および導入をはからなければならない。たとえば、九州のカタクチイワシの蓄養等が考えられる。